

第9期岡山県生涯学習審議会 第1回会議 議事概要

日時 平成25年8月16日(金)

13:30~15:30

場所 県庁南庁舎3階第2会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 第3次岡山県生涯学習推進基本計画の概要について
- (2) 第3次岡山県生涯学習推進基本計画の進捗状況について
- (3) 「人と科学の未来館サイピア」利用状況について
- (4) ESD世界大会について

3 閉 会

<議事概要>

- 「(1) 第3次岡山県生涯学習推進基本計画の概要について」「(2) 第3次岡山県生涯学習推進基本計画の進捗状況について」関係資料を事務局より説明。

事務局

第9期の審議に入る前に、事務局から3点、補足させていただきたい。第一に、生涯学習とは座学の学習だけでなく、活動・交流を含んだ概念である。人が成長する、地域がより良くなるためにどのような活動・交流が求められているかも本審議会の審議事項である。

第二に、昨今、自助・共助・公助と言われるが、生涯学習のフィールドは主に自助と共助に関わるものであり、自助・共助を活性化するために行政がいかに関わっていくかが生涯学習施策である。行政が引っ張るのではなく地域の人間の自発性をいかに引き出していくか大事であり、そのために行政はどういった関わり方が望ましいのか審議いただきたい。

最後に、生涯学習推進基本計画は来年度が見直し時期となっているが、次期計画については、教育振興基本計画と一本化する方向で考えている。第9期は、次期計画に盛り込むべき内容の審議が大きな役割となっているが、本日は、岡山県や生涯学習分野が目指すべき姿、行政がすべきこと等について、細部に入らず、大きな方向性やイメージをそれぞれの立場から自由に発言いただきたい。

委員 子ども参観日事業というのはどういった事業か。また各企業への呼びかけはどのように行っているのか。

事務局 子どもが保護者の職場を参観に行く取組である。企業への呼びかけは、これまで経済団体に事業PRを行ってきたが、思うような成果は得られなかったため、現在は協力いただけそうな企業に個別に声かけを行っている。口コミで増えていくように、取組事例を一つ一つ増やしていつている段階である。

委員 事業としてはいいと思うし、できることなら子どもたち全員に親の働く姿を見る機会を提供すべきである。この取り組みがどんどん広がることを願っている。

委員 現在の生涯学習施策の対象は、子どもからいわゆる現役世代とその少し上までという印象を受けているが、高齢者を対象とした事業はどうなっているのか。限界集落のような地域では高齢者がなかなか家から出てこない。何とか彼らを活用できないものかと考えている。先日、地域の高齢者と地域史編集について話をしたが、その方はとても協力的な反応を見せてくれた。要は投げかけ方だと思うが、貴重な人生体験を持っている方を生涯学習の舞台に登場してもらう時期が来ているのではないか。

委員 今や「教育県岡山」は地に落ちており、教育委員会も学力調査結果を向上させることに躍起になっている。短期的に見れば学力調査結果を向上させることは大切だが、私は「まちづくり」に失敗したことが原因だと思っている。学力調査の上位県に視察に行ったが、三世代同居率が高い等、家族や地域の絆の強さが残っている。

事業を実施しようとしても行政だけでできる時代はとっくに終わっている。まちづくりをしようとするれば、その核となる人材が必要。個人や団体が各々で行っていることを繋ぎ、コーディネートできる人材の育成が急務である。国の財政状況を考えれば、地方に回ってくるお金はどんどん減ることは明らかであり、行政の職員を減らしつつ、なおかつ地方を守ろうとするれば、住民やNPOと連携していくという視点がなければ生き残れない。そういう人材を公民館や教育委員会に配置することが第一歩だと考えている。

地域住民にボランティアへ参加したい意欲はあっても、受け皿を用意していなければなかなかできない。できるだけ具体的な形で受け皿を提示できる人材が必要不可欠。コーディネートできる人材の育成は最重要課題である。

委員

施策の進捗状況を見ていると、様々な形で発信していることはわかるが、アンテナを張っていないければ、情報をキャッチすることは難しいし、キャッチ力も低い。そのために数値的に伸びていないものもあるのではないかな。

個人のキャッチ力を伸ばすことは難しいが、発信した情報をふさわしい人やルートへ繋ぐことは可能だと思うし、必要なのではないかな。例えば中高生が参加する福祉系のボランティアは多いので、中高生がボランティアによって作った繋がりを引き継いで新たな高齢者との繋がりを作ることなどが考えられる。

子ども参観日と企業への学習機会の提供をコラボさせ、地域の高齢者のところに子どもが行って、働いていた頃の話聞きに行くなどしてもよいのではないかな。

委員

生涯学習が叫ばれ始めた頃は高齢者への施策が多かったが、生涯学習とは高齢者のためだけのものではないとの指摘もあり、子ども対象の施策にも取り組むようになり、子ども対象の施策が目立つようになってしまったのであろう。バランスが重要である。

今岡山県では、子育てや教育においても地域づくりにおいても様々な課題を抱えている。それらの背景には人と人との繋がりが希薄になっていることが挙げられるのではないだろうか。気候が良いとか災害が少ないという要因もあるのかもしれないが、「助け合う」「関わり合う」といった意識が低いとも指摘されている。人と人との繋がりで解決できる課題も多いのではないかなと思っ

ている。
人と人との繋がりを深めるためには、地域人材を活用し、様々な活動を地域で興していくコーディネーターの役割がとても重要である。地域住民が集まるときに進んで世話をするような人を多く発掘し、活躍してもらうことが大切だ。多くの人繋がることで、災害時にも迅速に対応できるようになるし、関わり合いも増えていく。行政だけで対応しようとする「市が」「県が」と押し問答になりやすい。ボランティアで世話ができる人を発掘して、人と人が繋がりを持てれば生涯学習も進んでいくし、地域づくりにも繋がっていくのではないかな。

委員

自分たちの若い世代が繋がっていくことで、街が変わっていくと思って動いている。地域活性化のために活動している団体もあれば、中山間地域や限界集落を専門に研究している団体もある。これらの団体をまとめたり、繋いだりすることはとても重要である。

既に様々な活動をしているNPOが存在しており、その存在がもっと知られるようになることは大切である。実際に、NPOセンターの紹介で県の職員が我々の活動にインターンで来たことがある。体験してもらうことで、自分たちの活動を知ってもらえるし、気楽に参加できることを理解してもらえた。これ

もコーディネートしてくれる団体があったからできたことである。

様々な活動で受け皿が必要という意見があったが、既に受け皿となるNPO（団体）があるなら活用すべきだし、県も支援すればよいのではないか。行政と地域、団体との役割分担が重要になっており、各方面に繋がりのある既存団体を活用して分担すればよいのではないか。

県内の若い世代は一般に思われているよりも、活発に地域活動を行っている。今の20代は巻き込み力がすごい。クチコミや友達から繋がりを作るのがうまい。20代のうちにそういった活動を経験することは子育て世代になったときなどにとっても大切になる。「若い子は興味ないだろう」と思わず、積極的に声かけしてもらって地域で使っていけばいいと思う。

委員

現在、地域に関わる団体・組織がたくさんある。学校支援地域本部もその一つ。しかし、全体で見るとどれも予算が少なすぎて、専門の人間を配置できるほどではない。指標に出ている社会教育主事についても、育てなければならないと皆思っているが、業務多忙等で消化不良の状態だと感じている。

私の住んでいる地域では、PTAや民生委員等の何らかの役職に就いている人が100人くらいいる。その人達が集まる催しが年に3回程度あるが、集まっても今ある催しをこなすための集まりとなってしまっていて、新たに地域を活性化しようというような話はなかなか出てこない。

また、高齢者の参加が少ないように思う。それは視点が「行事の消化」に置かれてしまっているためだ。うまくいっている地域もあるはずで、良い事例があれば、ぜひ情報提供してほしい。催しや活動の規模は小さくても、世代を問わず参加できるような機会をたくさん作るべき。

介護の分野では地域包括支援センターというのがあり、専門のスタッフが個人の相談に乗ったり、地域へのアドバイスなどを行っている。地域活性化も、そのようなプロの人間が必要であり、専門の職員として配置し、公民館等と協力して地域を動かしていくようになれば良い。

学校支援地域本部等も一部を除きほとんどボランティアである。良いところにはきちんと予算をつけて、専従の職員が配置できるようになれば良い循環になっていくと思う。

委員

生涯学習も地域づくり・地域力だと感じている。これは様々な分野で言われていることで、観光・産業から中山間・過疎問題まで、目的は全て地域づくりである。縦割りの弊害なのか地域での違いが大きい。例えば岡山市では公民館活動が活発。人材もいて地域課題に取り組んでいる。一方で、公民館には貸し館状態のところもあり、地域によって実情が全く違う。

実情が違うということがキーワードであり、基本計画では、細々したことを決める必要はないのではないか。各地域の課題を挙げ、どういった学びが必要

なのかと提案したうえで、各地域の実情に応じて「こういった助成ができる」「こういう人材が派遣できる」といった対応ができるようなフレキシブルな仕組みができれば良いと感じた。

コーディネーターは様々な分野にいるが、各々の専門分野でしか動いていないのが現状である。さらにそれらのコーディネーターを統括するコーディネーターが必要であり、1番の課題である。

行政としては各地域に公民館を設置し、企画できる人材を育てて配置することが理想的な形だろう。しかし、現状では「この地域ではNPOが」「この地域では地域包括支援センターが」と地域によって核となっている団体も違っている。生涯学習の管轄団体ではなくても、生涯学習分野から支援できる状態が望ましい。行政分野の縦割りを融合できる場合は、もしかしたら生涯学習という場なのではと感じている。

委員

私も公民館長を務めたことがあるが、岡山市の公民館活動は本当に素晴らしい。様々な場で岡山市等の良い取組を引き合いに出して取り組んでみたが、なかなか理想を実現できなかった。

私の住むところでは、教員や行政の退職OBが公民館長になるのが通例で、任期も決められている。指導員も同様である。結果、任期を何事もなく過ごすことが目標になりがちで、そんな空気が蔓延している。そこから根本的に直さなければ「公民館を核に」といわれてもただのお題目になってしまう。やる気のある公民館長もいるが、まずは人選からやり直さなければ、公民館を地域の核にするとと言われても絵に描いた餅である。

委員

外から生涯学習を眺めていたときから、市民活動と生涯学習というものが縦割りになっているなど思っていた。問題はそれをどう融合するかであり、各委員が指摘されたとおりである。

「協働」や「市民活動」というテーマで話をする際に、「どんな街になったらいいか」と質問するとほとんど答えが重なっている。例えば「高齢者が笑っている街」「公園からこどもの声が聞こえる街」「挨拶ができる街」といった感じである。生涯学習や市民活動の目標は、各々の活動が花咲くことではなく、挨拶があたりまえにできたり、人間関係が豊かになったり、誰かの役に立っていると実感できることだと思う。

県の段階では生涯学習センターやゆうあいセンターがあるが、市町村のレベルでコーディネートできる場が今後必須である。そこに行政やNPO、関係団体が入って、地域コーディネートできる場を作らなければならない。他県では既に実験的に行われていることであり、岡山市や井原市、笠岡市でも行われているが、小学校区単位で面識社会を横に繋げていく試みがある。面識社会ごとの横の連絡会を行い、それぞれの地域課題を横軸で共有し、考えていくという

住民自治組織の新しい形を試行錯誤している。簡単にいくことではないと思うが、そうなれば間違いなく公民館や小学校が中核をなしていくのではないかとされており、公民館はこれまでの教育委員会の所掌の枠を遙かに超えて社会的役割を担わざるを得ない立場になると思う。

委員

来年度に向けて計画の見直しをしていかなければならないが、状況が刻々と変わる中で目標指標の進捗状況だけでは議論できないことがたくさんある。アウトプットだけでなく、インプットはどうなっており、それに対してのアウトプットはどう変化しているのかを見ていかなければ議論はできない。この場の議論が予算や人事に直結するものではないが、総体的な評価をするためには、それら資料も併せて提示していただきたい。

人材の養成数が順調に増えているが、養成された人材がどんな取組や活動をしたかが大切であり、見える化はしにくいとは思いますが、計画の見直しを審議するには、そのあたりの情報も必要ではないか。

委員

情報の共有は重要なキーワードである。自分たちが発信した情報がどこまで届いているのか手応えがないことが多い。県レベルでの情報発信は、個人とは比べものにならない強力である。マスコミ等を利用したマクロの部分と地域ごとのクチコミのようなミクロの部分の両面で情報力が重要なのではないか。

各団体の情報は相互に分かっているようで知らないことも多い。むしろ上部組織から見た方が分かりやすいのではないか。県で持っているネットワークをうまく活用すれば良い。県の関係者にはより一層そのような意識を持って業務に当たってもらいたい。

委員

人々が繋がり、生き活きとした生活を送るには、集いの場が欠かせない。公民館や文化施設等の利用者数も年々増加しているが、一般市民がそれらの公共施設を気軽に利用できるようになることを望まれる。幅広い分野で学びの場を提供し、身につけた経験や特技を生かせる場を充実させることが重要。特に、退職後の地域デビュー推進は人材育成にも繋がっていくと思う。

また、乳幼児期という子育ての大切な時期に、気軽に参加できる親子のふれあいの場が身近な場所である環境を作り、子育て支援の充実させることや、伝統文化を次世代に繋げられる人材を発掘し、地域で伝承していくことにより、地域の活性化に繋がっていくと思う。

学び合い交流する中で、心と心が繋がり、笑顔で集う場が多くなれば、生き活きとしたまちづくりにつながると思う。

事務局 | まだまだ、多くの意見があると思うが、時間の関係があるので、言いそびれたことがあれば事務局に文書で提出してほしい。

○「(3)「人と科学の未来館サイピア」利用状況について」関係資料を事務局より説明。

委員 | 学校利用も順調に伸びており、何よりであるが、学校利用の実績を見ると保育所・幼稚園の利用が小学校に比べて少なく感じる。近くに池田動物園もあるので、セットプランを提案するなど、小学校に並ぶくらいの利用を目指してほしい。

事務局 | ご指摘のとおり保育所・幼稚園については、まだまだ増える余地があると考えている。昨年10月から予約受付を始めたが、実際に予約が入り出したのは今年の5月以降である。これについては我々のPRももっと力を入れていかなければと思っている。

指定管理者の中には、池田動物園も名を連ねており、どのような協力ができるか話し合われている。その一つとして、学校利用の際には、池田動物園の業者用の門を開放して、サイピアへの移動が近道できるようになった。また共通チケットの販売も検討している。指定管理者内で検討していく話ではあるが、県としても、タイアップできることはまだまだあると思っている。

委員 | 学校利用については、昨年度、様々なところで利用を働きかけたが、学校としては、施設の完成前で具体的なイメージが掴みにくく、予約が増えなかったという事情がある。学校は年度中途に次年度の計画を決めてしまうので、その後に変更することは難しい。学校園数だけでいえば県内で小学校・幼稚園は

1,000以上ある。当面は目新しさもあり、これからまだまだ学校利用は増えていくだろうが、正念場はある程度増えた後だと思う。中身をいかに充実したものにしていけるかが問われてくる。

委員 | サイピアのある京山中学区は公民館活動がとても活発である。これまでも高校生が出前講座をやったり、公民館で体験イベントを催している。生徒たちは成果発表する場を求めている。発表の場としてサイピアは良い施設だと生徒たちも思っているが、公民館と何が違うのかという戸惑いがあるようだ。よく分からないので今までどおり公民館を利用しようという空気になりつつある。また、中学生は使えないのかという質問もあった。発表の場として使おうとした際に、公民館等の公共施設との棲み分け、サイピアの特異性をもっと分かりやすくPRする必要があるのではないかと。また利用にあたっての窓口なども分か

りやすくしてもらいたい。

委員

学校利用は時期が重なるので、利用しようとしてもなかなか予約が取れなかったりする。6月に生徒を連れて行ったが、プラネタリウムはとても素晴らしかった。授業で十分に対応できないところも対応してくれるので、是非4～6年生くらいで利用してもらいたい。ただ、展示物等は、保育園・幼稚園のレベルで読めそうなものは無いので、対象レベルは小学生以上かと感じた。

○「(4) ESD世界大会について」関係資料を事務局より説明。

○「(5) その他」

委員

ノートルダム清心女子大学の渡辺和子先生の著書で「置かれた場所で咲きなさい」という本があるが、我々も置かれた場所で咲くようにしようと、リーダー養成研修などの場で常々言っている。大きな花である必要はないので、子育ての花でも福祉の花でもいいので何かの花を咲かせようとするのが大切である。